

論壇

受け入れ新たな仕組み

政府は介護などの分野で外国人の人材を積極的に利用する方向にかじを切り始めた。これまでとは違った新たな枠組みでの外国人労働の活用の道を開いたのだ。

今、公式に認識されている外国人の労働力は120万人ほどいると思われるが、それはいくつかの異なったタイプに分類される。第一はスキルを持った人材だ。大学での外国人の教授などがその典型だ。こうした人材については積極的に受け入れるようにしているが、それほど多くの人が来るわけ

伊藤 元重 学芸院大教授(国際経済学)

ではない。第二の種類は日系定住外国人と呼ばれる人たちであり、ブラジルやペルーなどから来る日系人の子孫たちだ。自動車の産業が集積する静岡県や群馬県などに多く来ている。

この10年ほどの間で特に増えている外国人の労働力は、技能研修

介護人材外国人の活用

生と呼ばれる人だ。これはあくまで技能研修が目的であるが、現実には工場や農場などの労働力を補う大きな役割を果たしている。ただ、その運営についてはいろいろな問題が指摘されている。

ルバイトである。コンビニや観光地の旅館などで多く見かける。留学生が生活するためにはアルバイトも必要だろうが、働くために学生のビザで入ってくるという本末転倒のケースも多く見られるようだ。

こうした中で、今回、介護人材に導入される仕組みだ。以前この欄で紹介したことがあるが、台湾では早くから外国人労働を介護人材として利用する制度が導入されていた。10年ほど前、私の台湾の友人の田舎の実家に行った時、彼の祖母の側にインドネシアの若い人がいて、かいがいしく世話をしていたのが印象的だった。当時で、住み込み食事付きで月に5万円ほどの給料だと言っていた。この人のおかげで、母と同じに居る友人の姉は教師の仕事が続けていた。

他の人手不足分野でも

その台湾には今、約20万人の外国人の介護人材が入っているという。台湾の人口は日本の6分の1ほどであるので、日本の人口規模に合わせると120万人の介護人材が海外から日本に来るようなイメージとなる。もしそうならば、介護の現場での厳しい人手不足は随分と改善されるだろう。

日本では、1年間に介護離職をする人が約10万人にもなるといふ。今後、高齢化がさらに進めば、介護離職の数もさらに増えることが予想される。介護分野での人材不足は待った無しの状態なのだ。今回の新しいタイプの外国人人材の活用のプログラムで、こうした介護の現状が少しでも緩和されることを期待したい。そして介護だけでなく、農業や漁業、建設業など、深刻な人手不足に悩む分野でも同様の仕組みを利用して外国人材の活用の道が広がればよいと思う。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。